

第16回 美保関町七類の「鉈盗られ物語」のこと

変わった昔話「鉈(なた)盗られ物語」を聞いたのは昭和45年7月26日のことであった。
語り手は森脇キクさん(明治39年生)。まず、その話をあげておく。

とんと昔があっただげな。

とんと隣の唐六左衛門が鉈を借りに来ただげな。

ついたちの日に行きたら、「ついもどいた」。

ふつかの日に行きたら、「不都合なことばかり言わさる」。

みっかの日に行きたら、「見たこたあにや(無い)」。

よっかに行きたら、「用のにや(無い)に何でござったか」。

いつかに行きたら、「いつのこと、疾(と)うもどいた」。

むいかに行きたら、「無理なことばかり言わさる」。

なのかに行きたら、「何のことだか」。

ようかに行きたら、「よもよも(本当に)よう来たなあ」。

ここのかに行きたら、「ここにはにや(無い)」。

とおかに行きたら、とうとうもどさだっただげな。

それで昔こっぱり。

この頭韻を踏んで愉快地語られている「鉈盗られ物語」であるが、話頭句「とんと昔があっただげな」で始まり、結句「そっで昔こっぱり」で終わっている。たしかに出雲地方での昔話のスタイルを備えているが、これは本来、東北地方で盛んだった「早物語」とか「てんぽ物語」という、早口で語る文芸だったようである。江戸時代、東北地方などを旅した菅江(すがえ)真澄(ますみ)(1754~1829)が岩手県江刺市に滞在した折に、この鉈盗られ物語を聞いている。



復元北前船「みちのく丸」

美保関町の場合は、おそらく東北地方の交易船が、七類港に風待ちでしばらく停泊していたときにでも、船員が地元の人々にこの早物語を語り、当地ではもともと早物語は発達していなかったのに、人々が前から親しまれている昔話の形態で、これを受容したものであろうか。なお、筆者は同類をたまたま同じ七類の別な女性からもうかがっているが、不思議なことに、その後いくら訪ねても他の地方で同類が存在しているという話に出会ったことはない。そのような点からも、この話のルーツは東北地方の早物語だったと、いよいよ確信を強めているところである。



七類港

(平成24年1月4日 民俗部会 酒井董美)